



2024 年度学校関係者評価報告書

2025 年 4 月

学校法人仙台 YMCA 学園

仙台 YMCA 国際ホテル専門学校

I. 自己点検の取り組みについて

本校では、2005年度から、全国にあるYMCA専修学校と共にYMCA独自の自己点検・自己評価を実施し、教育の改善に努めてまいりました。2014年9月、YMCA独自の自己点検・自己評価に加え、2013年3月に文部科学省生涯学習政策局から示された「専修学校における学校評価ガイドライン」にしたがって2024年度の自己点検・自己評価を教職員により実施しました。これに基づいてこの度以下の学校関係者による評価いただきました。

ここに結果を公表いたしますので、本校における教育の現状を正しくご理解いただき、本校の改善に資するためのご指導・ご助言をいただけましたら、幸いに存じます。

II. 学校関係者評価委員

No	氏名	企業名	役職	分類
1	加藤重雄	(株) ワールドトラベル仙台	社長	業界関係
2	伊藤博文	チェリーパークホテル	総支配人	業界関係 卒業生
3	佐々木心也	株式会社アクティビティジャパン	マネージャー	業界関係 卒業生
4	照井大介	ホテルメトロポリタン仙台	宴会支配人	業界関係 卒業生
5	青山 聡	仙台市立大志高等学校進路指導部	教諭	高校等評価委委員

評価は、適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 とした。

Ⅲ. 自己点検評価項目に対する委員の意見等

(1) 教育理念・目標 総合評価 4

- ・ 理念・目標の体系化と共有は十分に図られており、YMCA の教育理念が具体的に教育活動に反映されていることは評価できる。
- ・ リーダーシップ育成プログラムについて「弱い」との指摘があるが、これは YMCA の理念に即した実践的な教育の柱となる部分であり、単なる指導カリキュラムにとどまらず、全人的成長を促す機会として再構築してほしい。

(2) 学校運営 総合評価 4

- ・ 事業計画に基づいた運営がなされ報告も適正である。留学生への取り組みは評価される。
- ・ 内部の情報共有が滞ることで教育の質や学生支援に支障が出る可能性があるため、業務フローの見直しや非常勤職員の活用など柔軟な対応策が求められる。

(3) 教育活動 総合評価 4

- ・ 「若い講師に関わってもらう機会を増やす」という課題は、今後の教育の継続性や学生の共感性という観点からも重要である。世代交代を見据えた講師陣の構成や育成計画が今後の成長に寄与すると考えられる。

(4) 学修成果 総合評価 4

- ・ 課題として挙げられた卒業率の低下や資格取得率の改善は、教育の成果指標として重要な部分である。特に2年生のモチベーション低下については、個別対応だけでなく、学年全体での連帯感や達成感を高める仕組みの導入が効果的ではないか。

(5) 学生支援 総合評価 4

- ・ 社会人ニーズの把握と企画力の強化は、リカレント教育や地域連携事業の推進において重要な視点である。チャレンジを続けてほしい。
- ・ 学生会の活性化については、学生自身が学校運営に参画できる機会として、オーナーシップ向上にもつながるため、担当教員の関与と定期的な活動評価が必要である。

(6) 教育環境 総合評価 4

- ・ 学習環境の質の維持には、単なる補修ではなく、教育効果を高める新技術や設備への投資も含めて、計画的な備品管理体制の確立が望まれる。

(7) 学生の受け入れ募集 総合評価 4

- ・ Web 願書受付の導入は利便性向上とともに、広報戦略全体のデジタルシフトを促すきっかけとなると考える。実施後は、その効果検証も実施して行ってほしい。

(8) 財務 総合評価 4

- ・ 情報の公開を適切に行っている。
- ・ 定員未達成を解消するための「魅力ある学科づくり」を進めてほしい。

(9) **法令の遵守 総合評価 4**

- ・ 情報セキュリティやAI利用に関する倫理ガイドラインなど、時代に応じた法令対応の研究も進めてほしい。

(10) **社会貢献・地域貢献 総合評価 4**

- ・ 老人ホームなどの社会貢献は継続して実施してほしい
- ・ 「魅力あるカリキュラムの開発」という課題は、社会人や地域住民にとっての再学習ニーズに応える内容や、地域産業と直結した講座を開発してみてはどうか。

(11) **国際交流 総合評価 4**

- ・ 公益法人やYMCA ネットワークとの連携を活かした取組は、本校の特色として今後も強化してほしい。「海外への情報発信方法の模索」は引き続き戦略的に行い、多言語対応や動画・体験談などのコンテンツを発信してはどうか。